一般口演(多領域専門職部門)

一般口演(多領域専門職部門)5

多職種連携·教育

座長:仁尾 かおり (三重大学)

2015年7月18日(土) 15:00 ~ 15:45 第7会場 (1F シリウス)

III-TRO-21~III-TRO-25

所属正式名称: 仁尾かおり(三重大学医学部 看護学科)

[III-TRO-25]小児集中治療室へ配置転換された看護師が体験した気持ちの 変化

○野中 美喜, 三川 奈津美, 藤山 絢子, 清原 智子 (福岡市立こども病院)

キーワード:集中治療室,配置転換者,教育支援

【背景】A小児専門病院の集中治療室には、年間400例以上の先天性心疾患術後の患者が入室する。小児看護 技術と共に、高度な周手術期看護が要求される為、小児看護経験者でも自信を無くすことがあり、そのような集 中治療室に配置転換となったスタッフの困難感は大きい。【目的】配置転換者が、小児集中治療室での看護実践 や教育支援を受けることで生じた気持ちの変化を明らかにし、配置転換者が求める教育支援について検討す る。【方法】集中治療室に配置転換となった看護師7名に半構成的面接を行い、質的に分析した。【倫理的配 慮】院内倫理委員会承認後、プライバシー保護などを説明し文書で同意を得た。【結果】面接内容を分析した結 果、「配置転換直後の体験と思い」「重症患者に関わる不安や自信喪失」「経験者として感じる重圧」「周りの スタッフの支え」「前向きな気持ちの変化」「離職を思い留まる理由」「教育に対する思い」「家族ケアへの思 い」の8のカテゴリーが抽出された。配置転換者は病棟で経験した事のない緊迫した状況や、患者の死に直面し気 持ちの整理がつかない等の「配置転換直後の体験と思い」、急変時の対応ができない等「重症患者に関わる不安 や自信喪失」、更に「経験者としての重圧」を感じていた。しかし、共感し合える仲間や先輩の指導、認められ たと感じる等「周りのスタッフの支え」や自己の成長の実感、小児看護に携わる喜びが「前向きな気持ちの変 化」に繋がっていた。【考察】配置転換者は、今までの経験を発揮できない事が自信喪失に繋がっていると考え られたため、自信回復の為に経験に応じたOJTや勉強会の充実により、小児集中ケアに必要な知識と確実な技 術を習得することが必要である。加えて、認めてくれるスタッフや、共感し合える仲間の存在が、配置転換者の 自己効力感を高める為に不可欠であると考えた。これらを踏まえた教育支援の必要性が示唆された。